2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148A	卒業研究(加藤彰浩) Graduation Research	加藤　彰浩			4	必修	4前期・後期

科目の概要

本学における四大精神を実践し（DP1）、社会的に自立して生きていくうえで必要なスキル・教養や専門的知識・技能を身に付け（DP2,3）、建学の精神や社会人基礎力、pisa型学力を発揮し、地域及び国際社会に貢献する人材となるべく大学4年間で身に付けた知識・技能を発揮し（DP5,7）、子どもの保育・教育に関する学修の成果（DP3,4）として卒業研究を行う。

本授業では、自ら考え、主体的に活動し、調査・研究を行い、各自の興味・関心により設定したテーマについて、論理的思考に基づき、各自の主張を文章にまとめる方法と技術およびそれらを発表するプレゼンテーションに関する知識および技術について学ぶ。

各自が設定するテーマは、「体育・スポーツ」および「発育発達」を中心とし、家政学および教育学的思考に基づいた知識を駆使し、設定することが望ましい。

学修内容	到達目標
① 資料や文献の検索方法を学び、内容を整理し、まとめる。 ② 各自の興味・関心をもとに、実現可能なテーマを設定する。 ③ 各自に必要な調査・研究方法を調べ、設定する。 ④ 調査した結果をもとに、考察を検討し、文章にまとめる。 ⑤ 研究内容をもとにプレゼンテーション資料を作成し、発表する。	① 資料や文献の検索方法を学び、内容を整理し、人に伝えることができる。 ② 各自の興味・関心をもとに、実現可能なテーマを設定できる。 ③ 各自に必要な調査・研究方法を設定することができる。 ④ 調査した結果をもとに、考察を検討し、文章にまとめることができる。 ⑤ 研究内容をもとにプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	各授業テーマに合わせ、自分のテーマについて指示された内容についてまとめ、資料を作成することができる。
	働きかけ力	
	実行力	指示された内容以外に自分で考え、必要な資料を探し、まとめ、資料を作成することできる。
考え抜く力	課題発見力	各授業テーマにおいて、自分の資料や発表に不足している知識および内容を発見し、それを解決するために行動することができる。
	計画力	
	創造力	各授業において得た知識および明確化した課題を解決しようと各自で資料を検索し、資料作成に生かすことができる。
チームで働く力	発信力	資料をもとに自分の考えや意見を相手に伝わるように話し、議論することができる。
	傾聴力	他者の考えや意見を聞き、様々な考えや意見があることを理解し、自分の研究に生かすことができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	授業を休まず、決められた期日までに決められた資料を作成し、発表および提出することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

適時授業中に資料を配布する。

他科目との関連、資格との関連

本科目は、卒業必修科目であり、こどもの生活学科で学んだ全ての科目をもとに大学での学びの集大成となる科目です。

学修上の助言	受講生とのルール
○授業に出席するだけではなく、積極的に参加することにより、社会人として必要なスキルを得ることができる。 ○各自、興味のある内容について関心を持つこと。	○無断欠席は不可である。 ○毎回各自発表をしてもらうため、資料を必ず作成してくること。 ○ICT・AIを活用し、ICTおよびAI活用能力も合わせて高められるようにすること。 ○発表はPowerPointにて作成し、フィードバック等はGoogle ClassroomやWordの添削機能を用いて実施する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	70	①	✓			卒業論文について、以下の点を評価する。 ・テーマは斬新かつ有益な知見をもたらす内容あるか。 ・研究方法は適切であり、明快な記述がされているかどうか。 ・結果は明快に示されており、またそれらをもとに考察が根拠をもって行われているか。 ・論文の体裁が整っており、まとまっているか。 【知識の獲得】各自のテーマ・領域における知見や考えの整理：30% 【知識の活用】各自のテーマ・領域における知見を踏まえた自分の考えをまとめる：60% 【知識の解決】各自のテーマ・領域において導き出せる考えの検討：10%
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	20	①				卒業論文発表について、以下の点を評価する。 ・スライドはシンプルであり、相手に伝わるような内容で構成されているか。 ・相手に伝わるように配慮して発表しているか。 ・質疑応答に対し、適切に応えられているか。 【知識の獲得】スライドデザインの知識とプレゼンテーションスキルの獲得：30% 【知識の活用】各自の内容の要点を整理し、まとめる：40% 【知識の解決】作成したスライドをもとに各自の内容を他社へ伝える：30%
				②				
				③				
				④				
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性） ・指示に沿った内容で適切な資料が準備できるか。 （実行力） ・自分で考え、助言以外の内容を調べ、それらをもとに資料を作成できるか。 （発信力） ・自分の考えを相手に伝わるように議論できるか。 （傾聴力） ・他者の意見に耳を傾け、自分の考えていることと比較、検討することができるか。 （課題発見力） ・自分の知識および理解が足りないところを把握し、それらを解決するように行動し、資料に反映できるか。 （創造力） ・助言内容をもとに、次回の授業に向けて資料を作成できるか。 （規律性） ・毎回、きちんと授業に資料を作成できるか。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・斬新かつ有益な知見をもたらすテーマを設定できる。 ・研究方法は適切であり、明快な記述ができる。 ・結果は明快に示し、かつ考察が根拠をもってできる。 ・論文の体裁が整っており、まとめることができる。 上記4点ができた場合をAとし、さらに下記1点が出来た場合をSとする。 ・スライドはシンプルであり、相手に伝わるような内容で構成されており、相手に伝わるように配慮して発表し、質疑応答に対し、適切に応えることができる。	・斬新かつ有益な知見をもたらすテーマを設定できる。 ・研究方法は適切であり、明快な記述ができる。 ・結果は明快に示し、かつ考察が根拠をもってできる。 ・論文の体裁が整っており、まとめることができる。 上記のうち、3点ができていた場合をBとする。 上記のうち、2点ができていた場合をCとする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	○オリエンテーション ○文献検索方法について学ぶ ○NotebookLM等AIを活用した文献レビューの方法について学ぶ ○各自の興味・関心のある事象に関する文献を検索し、レビューする	演習 発表 ディスカッション	文献を調べ、資料を作成し、議論することができる。	（予習）各自の興味・関心のある事象に関する文献を読み、資料を作成する。 （復習）他者からもらったアドバイスを整理し、次回の資料作りの構想を考える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	○研究テーマの決定 ○研究計画書の作成 ○研究目的および研究方法について検討する	演習 発表 ディスカッション	文献を検索し、各自の研究テーマを設定することができる。さらに、研究計画書を作成し、議論することができる。	（予習）研究テーマに関する文献を読み、研究計画書を作成する。 （復習）他者からもらったアドバイスを整理し、次回の資料作りの構想を考える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-15	○予備調査 ○研究目的および研究方法の再検討	演習 発表 ディスカッション	予備調査を実施し、調査結果をもとに資料を作成し、議論することができる。	（予習）予備調査の段取りを検討し、調査計画書を作成する。 （復習）他者からもらったアドバイスを整理し、次回の資料作りの構想を考える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	○調査実施 ○データ入力 ○データ分析 ○調査結果の検討	演習 発表 ディスカッション	調査結果を分析し、結果に対する考察を考え、議論することができる。	（予習）調査した内容を入力し、結果をまとめ、資料を作成する （復習）他者からもらったアドバイスを整理し、分析内容を再検討する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-25	○論文デザイン ○論文の作成	演習 発表 ディスカッション	結果および考察をもとに論文デザインを行い、議論することができる。	（予習）分析したデータをもとに考察を検討し、論文デザインを作成する。 （復習）他者からもらったアドバイスを整理し、論文デザインを再検討する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
26-30	○論文の作成 ○論文概要の作成 ○発表スライドの作成および発表練習	演習 発表 ディスカッション	論文デザインを決定し、論理の通った文章および図表を作成、論文を執筆することができる。	（予習）論文デザインをもとに執筆する。発表スライドを作成し、発表練習を行う。 （復習）他者からもらったアドバイスを整理し、論文およびスライドを再検討する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148C	卒業研究(小倉弘之)	小倉　弘之			4	必修	4前期・後期

科目の概要

４年間の学びの集大成として、DP①～⑥を踏まえ自ら興味を持ったテーマに主体的に関り、学術的な根拠を基に探求、調査を推し進め最終的に研究論文にまとめる。計画、実行、課題発見、解決を繰り返しながら論文執筆、プレゼンテーションを行う能力を養う。テーマは主に、英語教育に関するもの、及び小学校教育（主に学習指導・教師教育）に関するものを取り扱う。

学修内容	到達目標
① 解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにする。 ② 研究課題から研究目的を明らかにする。 ③ 研究目的にそって研究計画を立案する。 ④ 研究計画に基づいて調べたり、実践したりする。 ⑤ 論文・スライドを作成し発表を行う。	①　解決すべき問題や現状、研究課題を明らかにすることができる。 ② 研究課題から研究目的を明らかにすることができる。 ③ 研究目的にそって研究計画を立案することができる。 ④ 研究計画に基づいて調べたり、実践したりできる。 ⑤ 論文・スライドを作成し発表を行うことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	到達目標達成に向けて、指示がなくても課題を自ら見つけ取り組むことができる
	働きかけ力	
	実行力	目標達成のため、手順や方法を考え実行することができる。
考え抜く力	課題発見力	事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	調査結果や収集データを、先入観や常識に囚われずグローバルな視点で検討、解釈することができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容を的確な文章で表現したり、グループ討議、発表の際に、自らの意見を整理して伝えることができる。
	傾聴力	聞き取り調査、グループ討議、発表等の際に、情報や他の人の意見に主体的に耳を傾けることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	計画に基づき、期限厳守で目標達成に向け行動することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

必要に応じて参考文献を紹介します。

他科目との関連、資格との関連

本科目は卒業必修科目であり、それまでに学んだ全ての科目をもとに大学での学びの集大成となる科目です。

学修上の助言	受講生とのルール
4年間の学修の集大成として研究論文を作成するために他の授業、就職活動と並行して努力すること。	期限厳守です。 担当教員への報告、連絡、相談を怠らず、計画的に取り組むこと。 同じゼミの仲間として互いに支援・切磋琢磨していくこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	30	①	✓			（獲得）研究の動機、先行研究、調査方法など、期限までにレポートとして提出：100％
				②	✓			
				③	✓			
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			（活用）先行研究を基に独自性のある課題探、データ収集など：40％ （解決）収集したデータや先行研究のレビューを用いての考察・発表：60％
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			主体性：自ら主体性をもって学び続けることができる 実行力：課題達成のための方法を考え行動できる 課題発見力：様々な視点から課題をとらえることができる 創造力：様々な方向から物事を捉え考えることができる 発信力：意見を述べたり、発表したりできる 傾聴力：話を聴いたり、メモを取ったり学ぶ姿勢ができている 規律性：研究計画に基づき、提出期限やルールを守ることができる
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
A(優) ・指定された期限までに提出物を提出することができた。 ・論文では「目的」を明確にしたうえで、目的に適した「方法」を選択し、「結果、考察、まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができた。 ・発表では指定時間内に聞き手にわかりやすく伝えることができた。 S（秀） ・上記3点に加え、研究内容に独自性があり、学生の前で工夫しながら発表できた場合にS（秀）評価とする。	B（良） ・指定された期限までに提出物を提出することができた。 ・論文では「目的」を明確にした上で、「方法、結果、考察、まとめ」を書くことができた。 ・発表では指定時間内に研究内容を伝えることができた。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	・年間の見通しを立てる。 ・図書館において、文献検索方法について学ぶ。 ・過去のテーマを検索する。 ・研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。	討議 調査	自らの研究課題を明確にすることができる。	（予習）研究テーマを検討する。 （復習）研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-5	・図書館において、文献検索方法について学ぶ。 ・過去のテーマを検索する。 ・研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。	討議 個別指導 調査	先行研究を読み込み、研究課題の方向性を確定できる。	（予習）先行研究を読む。 （復習）研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-8	・研究テーマの決定と研究計画書の作成を行う。 ・研究課題を明確にし、研究目的、方法、内容について計画を行う。	討議 個別指導	討議を行いながら研究課題を決定し、研究計画書を作成することができる。	（予習）研究計画を立てる。 （復習）研究課題を明確にし研究目的、方法、内容について計画を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-10	・研究テーマの決定と研究計画書の作成を行う。 ・調査研究を行うフィールドを調整する。 ・基になる文献の分析方法を考える。	個別指導 実地調査	研究の計画書を作成し、調査研究を行うフィールドを調整する事ができる。 研究の基となる文献の分析方法が理解できる。	（予習）研究計画を立てる。 （復習）研究課題を明確にし研究目的、方法、内容について計画を行う。 （予習）調査の準備をする （復習）研究方法を検討し、調査を行う	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-13	・研究方法の検討 ・アンケートの方法で取り組む場合は項目の検討、取材の方法で取り組む場合には相手方との折衝を行う。 ・基になる文献を確定する。	討議 個別指導	討議を行いながら研究課題を達成するための研究方法を考えることができる。 アンケートの方法で取り組む場合は項目の検討、取材の方法で取り組む場合には相手方との折衝を行うことができる。 基になる文献の分析を進めることができる	（予習）調査の準備をする。 （復習）研究方法を検討し、調査を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14-15	・研究方針の基づいて実地調査を行う。 ・記録の分析方法を知る。	個別指導	実地調査記録の分析方法が理解できる。	（予習）調査の準備をする。 （復習）記録の分析を進める。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	・アンケートの集計及び、取材のまとめをする。 ・基になる作品の文章分析をする。 ・論文執筆要領を理解する。 ・論文執筆を進める。（※必要に応じてGoogle Meetなども活用）	個別指導 講義	調査結果のまとめ及び、文章分析の方法を理解し、執筆内容の把握ができる。 目次を立て、各章における執筆内容を把握することができる。 論文を書き進めることができる。	（予習）調査結果をグラフにし、考察を進め、論文執筆をする。 （復習）グラフの考察から文章分析を箇条書きにし、論文執筆要綱に則り、論文を作成する。	180	実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-25	・卒業論文の作成、抄録の作成 ・文章の推敲	個別指導	文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができる。	（予習）論文執筆する。 （復習）論文執筆要綱に則り、論文を作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
26-29	・卒業論文の仕上げ、抄録の作成 ・発表のためのパワーポイント作成 ・発表原稿の作成	個別指導	文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができる。 文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができ、発表のための論文要旨がまとめられる論文の内容を発表時間に合わせて話すための筋書きができる。 見やすいパワーポイントができ、所定の時間内に発表ができるよう練習することができる	（予習）論文執筆し、発表のためのパワーポイントを作成する。 （復習）論文執筆要綱に則り、論文を作成す、時間内に発表する練習をする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
30	・卒業研究提出の準備をし、研究発表の練習をする。	討議 個別指導	見やすいパワーポイントができ、所定の時間内に発表ができるよう練習することができる。	（予習）時間内に発表する練習をする。 （復習）論文を見直し提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148D	卒業研究(伊藤久美子)	伊藤　久美子			4	必修	4前期・後期

科目の概要

本学のディプロマポリシーDP①、②、③に記載している現代のこどもの生活問題に対する認識と現実の保育および教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、現代の子育て問題や教育再生、地域再生に取り組むことができ、 DP④、⑤の社会的に自立して生きていく上で必要な建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力・直観力・ 自然体を統合的に身に付けることを目指します。
大学における幼児教育・保育の学びのまとめとして、自らの興味と関心をもったテーマを設定し、先行研究や文献から主体的に情報を収集して探究し、得られた結果をまとめ、論文を執筆します。研究を進める中で、論理的な思考、内容を正確に伝達する表現力を身につけ、研究内容や結果を学内の卒業研究発表会で発表します。（DP⑥)

学修内容	到達目標
① 幼児教育・保育に関連するテーマを確定し、目的を設定する。 ② 先行研究および用語の定義を調査する。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を考える ④ 収集したデータを分析し、考察してまとめる。 ⑤ 論文を作成し学内の発表会で発表する。	① 自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ② 先行研究および用語の定義が調査できる。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を構築できる。 ④ 収集したデータを分析して考察してまとめることができる。 ⑤ 論文を作成し、学内の発表会で発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	主体的に設定したテーマをもとに、発表準備における該当課題について積極的に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	既習科目や実習経験、文献やインターネットの情報を活用し、研究を遂行するために粘り強く、強い意志をもって取り組み続けることができる。
考え抜く力	課題発見力	研究内容や発表における疑問点や自分に不足している知識または技能を認識して、情報収集や分析を行ったり、課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めたりすることができる。
	計画力	
	創造力	研究を進めるなかで得た子どもを取り巻く今日的課題を見出し、必要な保育の意義を考え、理想の保育者としての自分の姿をイメージして新たな保育観や保育方法を探求することができる。
チームで働く力	発信力	自身の研究について分かりやすく整理してまとめたことを論文にすることができ、相手に分かるように内容を説明したり、発表することができる。
	傾聴力	討議や発表を聞くときは、相手の意見を正確に理解したり、疑問について質問をしたりすることができる。また共感的な姿勢で相手の考えを引き出し、他者からの意見を素直に受け止めることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	研究を行う上でふさわしい態度や期日の厳守等の必要性、重要性を理解し、遵守することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキストは使用しない。
研究のテーマにあわせて参考文献を紹介します。

他科目との関連、資格との関連

卒業研究（330743148D）は、全ての既修科目で修得した知識、実践力を基としディプロマポリシーの修得に結び付く集大成の科目である。

学修上の助言	受講生とのルール
大学の学びの集大成となる論文を作成するために、自身の得た知識を十分に発揮できるように主体的に取り組む態度で臨みましょう。前期は、週１回のゼミナールを行います。後期は、主に個別指導の形式とします。	・課題等は期限を守って提出すること。 ・無断欠席をしないこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			①自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義が調査できる。 ③研究方法を検討して研究計画を立て、論文の構成を構築できる。 ④考察をまとめ、論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で発表することができる。 ・pisa型学力の評価方法について 知識の獲得（研究目的の理解・研究方法の理解）：30% 知識の活用（研究テーマに添った調査・情報収集の試み）：40% 知識の解決（研究テーマに関する問題提起の事例と具体的な提案）：30%
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）主体的に設定したテーマをもとに、発表準備における該当課題について積極的に取り組むことができる。 （実行力）既習科目や実習経験、文献やインターネットの情報を活用し、研究を遂行するために粘り強く、強い意志をもって取り組み続けることができる。 （課題発見力）研究内容や発表における疑問点や自分に不足している知識または技能を認識して、情報収集や分析を行ったり、課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めたりすることができる。 （創造力）研究を進めるなかで得た子どもを取り巻く今日的課題を見出し、必要な保育の意義を考え、理想の保育者としての自分の姿をイメージして新たな保育観や保育方法を探求することができる。 （発信力）自身の研究について分かりやすく整理してまとめたことを論文にすることができ、相手に分かるように内容を説明し、発表することができる。 （傾聴力）討議や発表を聞くときは、相手の意見を正確に理解したり、疑問について質問をしたりすることができる。また共感的な姿勢で相手の考えを引き出し、他者からの意見を素直に受け止めることができる。 （規律性）研究を行う上でふさわしい態度や期日の厳守等の必要性、重要性を理解し、遵守することができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
(S) ①自身が研究するテーマを意欲的かつ明確に確定し、計画的に目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義を広く確実に調査できる。 ③研究方法を広く検討し、研究計画に基づいて論文の構成を正確に構築できる。 ④考察を客観的根拠に基づいてわかりやすくまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で分かりやすく学術的に発表することができる。 (A) ①自身が研究するテーマを明確に確定し、計画的に目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義を広く調査できる。 ③研究方法をと研究計画を立て、論文の構成を正確に構築できる。 ④考察をわかりやすくまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会でわかりやすく発表することができる。	(B) ①自身が研究するテーマを確定し、計画的に目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義を自主的に調査できる。 ③研究方法を検討し、論文の構成を考えることができる。 ④考察をまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で自分なりに発表することができる。 (C) ①自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義が調査できる。 ③研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 ④考察をまとめ、論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で発表することができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	・研究のスケジュールを立てる。 ・研究テーマを確定するため、過去のテーマを検索する。 ・研究倫理について学ぶ。 ・研究の動機と目的を明確にする。	ゼミナール　ディスカッション google classroomにてフィードバック	研究テーマを確定するため、過去のテーマを検索し研究の動機と目的を明確にすることができる。	（予習）自分の興味があるテーマを調べて検討してくる。 （復習）指導教員及びゼミのメンバーからのアドバイスを整理して、記録する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	・研究テーマを確定し、研究計画書の作成を行う。 ・テーマに基づいて先行研究および用語の定義を調査する。 ・研究の内容と方法について検討する。	ゼミナール　ディスカッション notebook LM	・用語の定義を調査し、一覧表にまとめることができる。 ・研究の内容と方法について考えることができる。	（予習）目的に関連する用語の定義を調査する。 （復習）用語の定義を一覧表にまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-15	・調査などの記録方法について考える。 ・フィールドの調整を行い、調査をする。 ・記録の分析方法について考える。 ・論文の構成を考える。	ゼミナール　notebook LM google classroomにてフィードバック	研究の進め方を理解し、論文構成を考えることができる。	（予習）研究の構成を構築する。 （復習）論文構成に従い資料を収集する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-25	・データの集計及び分析を行う。 ・結果及び考察をまとめ、論文を作成する。	個人指導 google classroomにてフィードバック	論旨の一貫性を遵守し、伝えたい研究内容を執筆できる。	（予習）資料を駆使して論文を執筆する。 （復習）修正部分を手直しして、次回のための文章作成を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
26-30	卒研発表会で発表する資料を作成し、発表する。	個人指導 ゼミナール google classroomにてフィードバック	論文内容を簡潔に整理し、発表資料を作成できる。 卒研発表会で発表できる。	（予習）発表資料を作成する。 （復習）発表のための事前練習をする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148E	卒業研究（松橋） Graduation Research	松橋　俊輔			4	必修	4前期・後期

科目の概要

本科目では、各自が研究テーマを設定し、文献研究によって卒業論文を執筆する。担当者の専門領域は教育思想史・教育哲学だが、教育に関わるテーマの文献研究であれば、倫理学、歴史学、社会学、政治学、宗教学等の知見を取り扱うことも考えられる。本科目は、4年間の学びの集大成としてDP１～６すべてに関連している。

学修内容	到達目標
① 研究テーマを主体的に設定し、研究課題を発見する。 ② 研究テーマを具体化するために必要な資料や文献を調査する。 ③ 研究課題を明らかにするための研究調査を行う。 ④ 研究成果を卒業論文としてまとめる。 ⑤ 卒業論文の概要をプレゼンテーションする。	① 研究テーマを卒業論文の題目として示すとともに、研究課題を明示することができる。 ② 研究テーマとその課題に関わる先行研究を整理し、適切な形でまとめることができる。 ③ 研究を遂行して課題に対して自分なりの解答を発見することができる。 ④ 論文としてふさわしい形式を備えた論文を完成させることができる。 ⑤ 卒業論文の概要を分かりやすく口頭発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	自分自身の関心に沿ってテーマと課題を発見し、進んで研究を進める。
	働きかけ力	
	実行力	積極的に文献を収集し、恐れることなく原稿の執筆を進める。
考え抜く力	課題発見力	自らが学び気づいたことを学士論文にまとめるために必要な要素を考え見出す。
	計画力	
	創造力	卒業論文の問いと答えの構造や論の展開をねばり強く構想する。
チームで働く力	発信力	論旨や展開の明確な文章を書き、明快な発表をする。
	傾聴力	文献の語りかけるものに虚心に耳を傾けるとともに、他のゼミ生の研究に関心を持って学び質問や意見で貢献しようとする。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	研究作業を後回しにすることなく、余裕をもって計画的に取り組む。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

適宜、指示・配布する。

他科目との関連、資格との関連

本学部・学科における学びのすべてを締めくくるための科目である。

学修上の助言	受講生とのルール
自分自身の感性や関心を大切にしつつ、同時に、論文としてまとめるためにそれを客観的に捉えようとする視点を持つことが重要です。また、その都度、研究遂行上の課題を明確に捉え直しつつ進みましょう。	卒業論文の執筆は、思考と言葉の訓練であるのみならず、情報・時間・自己のマネジメントの訓練でもあり、自分自身を客観的に理解するための契機でもありえます。この機会を受講生全員が活かすことができるよう、互いに暖かく耳を傾け合って支え合い、安心して研究と向き合うことのできるゼミにしましょう。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	70	①	✓			卒業論文を、下に記す到達レベルの基準に沿って評価する。【獲得30％：内容や形式に関する知識を誤りなく用いている／活用30％：正確な内容で論理的な形式の文章を書いている／解決40％：論文としての条件を満たしている】
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	20	①				研究発表を、下に記す到達レベルの基準に沿って評価する。【獲得20％：発表方法についての知識を得ている／活用40％：スライドの分量や発表の流れを意識して構成している／解決40％：自らの研究の問いと答えと根拠を分かりやすく伝えている】
				②				
				③				
				④				
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）自分自身の関心に沿ってテーマと課題を発見し、進んで研究を進めている。 （実行力）積極的に文献を収集し、恐れることなく原稿の執筆を進めている。 （課題発見力）自らが学び気づいたことを論文にまとめるために必要な要素を考え特定している。 （創造力）卒業論文の問いと答えの構造や論の展開をねばり強く構想している。 （発信力）論旨や展開の明確な文章を書き、明快な発表ができている。 （傾聴力）文献の語りかけるものに虚心に耳を傾けるとともに、他のゼミ生の研究に関心を持って学び質問や意見で貢献しようとしている。 （規律性）ゼミとしての進行のために、期限を守って計画的に取り組む。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
到達レベルＳ 研究のテーマ・課題が明示されたうえで、先行研究を明快に整理し、説得的な解答を明確に示している。それに際して、学術論文としての体裁が守られ、主張の合理的な根拠が示されており、論理展開に問題がない。また、論文の概要を他の受講生に伝わるように発表できている。 到達レベルＡ 研究のテーマ・課題が明示されたうえで、先行研究を整理し、解答を明確に示している。それに際して、学術論文としての体裁が守られ、主張の根拠が示されており、論理展開におおよそ問題がない。また、論文の概要を他の受講生に伝わるように発表できている。	到達レベルＢ 研究のテーマ・課題を示したうえで、先行研究と関係づけながら、解答を示している。それに際して、学術論文としての体裁がおおよそ守られ、主張を根拠づけようとする努力がみられる。また、論文の概要を簡潔にまとめて発表できている。 到達レベルＣ 研究のテーマ・課題を示したうえで、先行研究に触れながら、解答を示そうとしている。それに際して、学術論文としての体裁がおおよそ守られ、主張を根拠づけようとする努力がみられる。また、論文の内容を発表できている。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	テーマの決定 —ガイダンス —ブレインストーミング —文献調査 —テーマの決定と研究課題草案の提出	演習 ICTを活用した調査 各自作業へのフィードバック	自らの関心に沿ってテーマを設定し、研究課題の候補を挙げることができている。	（予習）・（復習） 関連文献を調査し研究テーマ及び研究課題を案出する。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	先行研究調査 —先行研究の調査と発表 —研究課題案の発表	演習（発表・ディスカッションを含む） ICTを活用した調査 各自作業へのフィードバック	先行研究の調査をふまえて研究課題の案を発表できている。	（予習）・（復習） 先行研究を調査して発表準備をし、研究課題を案出する。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-15	研究課題の決定とアウトラインの作成 —アウトラインの作成・発表 —研究課題の決定 —論文のルールの確認	演習 各自作業へのフィードバック	アウトラインの草案を作成し研究課題を決定できている。	（予習） アウトラインを作成して研究課題を決定する。 （復習） 論文のルールを確認しながら、本体部分の執筆を始める。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	本論の執筆 —論文本体部分の執筆 —中間発表 —フィードバックを踏まえた執筆の継続	演習 個人指導 各自作業へのフィードバック	論文の本体部分を半分以上執筆できている。	（予習）・（復習） 論文本体部分を執筆し、中間発表へのフィードバックを踏まえて加筆・訂正する。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-25	論文の完成 —序論・結論の執筆 —論文の体裁の確認	演習 個別指導 各自作業へのフィードバック	論文を完成させることができている。	（予習）・（復習） 序論・結論部分を執筆し、論文としての体裁を整えながら全体を推敲して完成させる。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
26-30	研究発表 —発表資料を作成する —研究内容を発表する	演習 各自作業へのフィードバック	研究内容を発表することができている。	（予習） 発表資料を作成する。 （復習） 必要に応じて論文を加筆修正・推敲する。	900	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148I	卒業研究(髙田) Graduation Research	髙田　由基			4	必修	4前期・後期

科目の概要

　ＤＰ２・３に記載されている教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み、自己の可能性を高め社会に貢献しようとする学生の育成を目指す。
　そのために本科目は４年間の学びの集大成として、①自ら研究テーマを設定し、②設定した研究テーマ解明のために必要な文献や先行研究を主体的に収集し、③研究仮説検証のための調査研究活動の結果を検討し考察を加え、④論理的な思考力を働かせながら卒業論文を完成させていく。
　テーマは主に体育・健康あるいは、学校教育に関するものとする。それらの現状や課題を明確にしたうえで、①～④に従い卒業論文を完成させ、研究成果の発表を行う。

学修内容	到達目標
① 体育・健康、学校教育に関する現状と課題を課題を明確にし、研究テーマを設定する。 ② 研究テーマに関する文献や先行研究を収集する。 ③ 研究方法を検討し、調査研究活動を行う。 ④ 研究結果とその考察を行い、論文を作成する。 ⑤ 研究内容や結果を学内の卒論発表会で発表する。	① 体育・健康、学校教育に関する現状と課題を課題を明確にし、研究テーマを設定することができる。 ② 研究テーマに関する文献や先行研究をCini等の情報検索システムや図書館の蔵書等を活用し収集することができる。 ③ 予備調査によって抽出された課題を、これまでの知識や情報等を活用して再検討し、本調査研究活動を行うことができる。 ④ 研究結果とその考察を行い、論文を作成させることができる。 ⑤ 研究内容や結果を学内の卒論発表会で発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	自ら研究テーマを設定し、研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	研究遂行のために必要な文献や先行研究を収集することができる。
考え抜く力	課題発見力	研究テーマに関する現状を把握し、課題を明確にすることができる。
	計画力	
	創造力	上記で抽出された課題に対し、多面的・多角的に結果を考察し、新たな課題とその解決法を考えることができる。
チームで働く力	発信力	調査研究した内容を的確な文章で表現するとともに、プレゼンテーション技法を用いて発表することができる。
	傾聴力	他者の意見や考えを聴き、様々な見方や考え方があることを理解し、自分の研究に生かすことができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	卒業研究が円滑に進行するように、ゼミ内で決めた規則やルールを遵守できる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキストは使用しない。
参考文献や先行研究を適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

資格との関連：小学校教諭、幼稚園教諭、保育士
　４年間の学びの集大成である。これまで学んできたすべての科目と関連をもっているが、こどもの生活学科の卒業研究であることから、子どもの生活に関するもの（「こども生活学」等）や教育学系の科目（「教育方法論」等）、そして教科教育学系の科目（「体育科教育法」「体育科研究」等）を基盤として位置づけられている。

学修上の助言	受講生とのルール
４年間の学びの集大成である。従って、ただ参加しているだけではなく、毎回指定された課題の報告を行うこと。それだけでなく、自ら文献や先行研究を収集するなどして、その内容を発表すること。 　主体的で能動的な態度で、授業に臨むこと。	・ゼミの欠席厳禁。 ・毎回の課題報告を行うこと。 ・授業で指示される課題の提出期限を遵守すること。 ・講義や課題において、google forms、google classroom等を活用することがある。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	80	①	✓			卒業論文は、以下の点で評価する。（獲得30%、活用30%、課題解決40%） ・研究テーマの解明にあたり、研究目的を明確に示している。 ・研究仮説検証のための方法が有効である。 ・結果が明確に示され、結果をもとに考察が根拠をもって多面的・多角的に行われている。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	10	①	✓			卒業論文発表は、以下の点で評価する。（獲得30%、活用30%、課題解決40%） ・プレゼンテーション技法活用し、聴き手に理解しやすい発表である。 ・制限時間を有効に活用した発表である。 ・質疑応答に対し、適切に返答する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）自ら設定した研究テーマの課題解決に主体的に取り組むことができる。 （実行力）卒論を完成させるための手順や方法を考え、目標に向かって進めることができる。 （課題発見力）事実に基づき情報を客観的に検討し、課題を見極めることができる。 （計画力）いつまでに何をすべきかの観点で卒論完成までの流れを作成することができる。 （創造力）多面的・多角的な方向から物事を捉えることができる。 （発信力）卒業論文の内容を的確な方法や文章で表現できる。 （傾聴力）他者の意見や考えに耳を傾け、自らの考えを述べることができる。 （柔軟性）多方面から情報収集をしたり、新たな視点で考察を行ったりするなど、柔軟な発想で卒論に取り組むことができる。 （規律性）卒業研究が円滑に進行するように、ゼミ内で決めた規則やルールを遵守できる。 （ストレスコントロール力）運動やスポーツ、自分の趣味をもちストレスをコントロールして卒論に取り組むことができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①体育・健康、学校教育に関する現状や課題を解明するために焦点化した研究テーマ、研究内容、研究方法を具体的に設定できた。 ②研究目的を明確にし、目的に適した方法を選択し、結果を多面的・多角的に考察し、卒論を作成できた。 ③研究内容をプレゼン技法を活用しながら聴き手に分かりやすく、かつ制限時間内に発表できた。 　以上に加えて、上記の内容が秀でていたり、学会の学生発表会で発表できた場合はＳ（秀）とする。	①体育・健康、学校教育に関する現状や課題を解明するために研究テーマ、研究内容、研究方法を設定できた。 ②研究目的を明確にし、目的に適した方法を選択し、結果、考察、まとめの卒論を作成できた。 ③研究内容をプレゼン技法を活用しながら、制限時間内に発表できた。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	○オリエンテーション ○文献検索の方法を学ぶ。 ○体育・健康、学校教育の現状や課題の抽出を学ぶ。 ○抽出した課題をもとに、自分の興味・関心のある事象に関する文献や先行研究を検索し、レビューする。	1.講義：卒業論文の進め方 2.演習：先行研究、参考文献収集 3.発表：各自が収集した先行研究と卒論計画の発表	・文献検索の仕方ができる。 ・ゼミでの討議に参加し、質問や意見を述べることができる。 ・ゼミでの討論から自らの研究課題を明確にすることができる。	（予習）卒論テーマとして考えていることとその理由をまとめてくる。 （復習）ゼミメンバーと指導教員のアドバイスをもとに、次回のレジュメのための資料を作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	○研究テーマの決定と研究計画書を作成する。 ○研究課題を明確にし、研究目的・内容・方法を検討する。	1.演習：研究計画書の作成 2.発表と討議：研究内容、研究方法の発表と討議	・ゼミで討議を行いながら、研究活動を決定することができる。 ・研究課題をもとに研究目的を明らかにし、研究内容・方法を考えて研究計画書を作成できる。	（予習）研究テーマに関する文献や先行研究を収集する。 （復習）研究目的・内容・方法を整理し、用語の定義を一覧に示す。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-15	○研究内容及び方法を検討する。 ・質問紙調査項目の検討 ・予備調査の実施と簡易分析 ・本調査用紙の作成と本調査の実施	1:演習：調査用紙の作成 2:発表と討議：調査用紙の内容及び予備調査・本調査の実施計画の発表と討議	・ゼミでの討議を行いながら、研究テーマを解明するための研究仮説を設定できる。 ・研究仮説の検証を行うための質問紙を作成できる。 ・予備調査結果に基づき、調査項目を修正し、本調査を実施できる。	（予習）研究テーマ解明に関する質問紙を作成する。 （復習）先行研究の調査項目や予備調査結果をもとに本調査用紙を完成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 情況把握力 規律性
16-20	○パソコンの用いたデータ分析方法を学ぶ。 ○データ入力、集計、分析を行う。 ・各自のデータ分析に最も相応しい解析法を選択し、データ分析を行う。	1.講義：統計分析方法 2.演習：データ入力と分析 3.発表と討議：データ入力結果の発表と内容についての討議	・パソコンを用いてデータ分析を行うことができる。 ・各自のデータ分析に最も相応しい分析方法を用い、データ分析ができる。	（予習）先行研究で用いている分析手法を抽出してくる。 （復習）データ分析の結果を整理しておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力
21-25	○卒業論文を作成する。 ・結果の記載方法を学ぶ。 ・結果から読み取れることや考えられることを先行研究等と比較しながら、考察の書き方を学ぶ。	1.講義：統計分析方法、論文の構成と書き方 2.演習（個人作業）：論文作成 3.演習（意見交換）：ペアでの卒論読み合い、疑問点等の発表	・データ分析した結果を本文に分かりやすく記載することができる。 ・結果から読み取れることや考えられることを先行研究等と比較しながら、考察を書くことができる。	（予習）既卒生の卒業論文を閲覧し、完成すべき卒論のイメージをもつ。 （復習）研究内容、仮説、研究方法、結果及び考察を作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力
26-30	○卒業論文及び要旨を完成する。 ○卒業論文発表用スライドの作成と発表練習を行う。	1.講義：発表用スライド、卒論本文及び要旨の書き方 2.演習（個人作業）：論文作成、発表スライド作成 3.演習と討議：スライド発表をもとにした疑問点等の発表	・研究目的を解明する卒論であるかを吟味し、論文執筆ができる。 ・卒業論文発表用スライドの作成と発表練習を行う。	（予習）卒業論文の全体構想を考える。 （復習）ゼミメンバーや指導教員のアドバイスに基づき、論文及び発表用スライドを修正する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148L	卒業研究(永津)	永津　利衣			4	必修	4前期・後期

科目の概要

本科目は4年間の学びの集大成として四大精神「真心・努力・奉仕・感謝」を実践しながら、現代の子育ての面からの支援の視点をもち、保育者・小学校教諭に不可欠な専門的な知識と技能を身に付け、職場と地域の人々と協働して課題解決していくことができる人材、、自立した社会人として自らの可能性を高め、職場や地域の課題解決に貢献できる人材の育成をめざす（DP①②③④⑤⑥）。自らの関心から主体的に課題を発見し、研究計画を立て、文献やフィールドから情報を収集し、科学的な視点から分析や考察を行っていく。その成果を論文としてまとめ、わかりやすく発表する。研究テーマは、音楽表現を中心とした子どもの表現、障害やインクルーシブ保育・教育に関する分野とする。

学修内容	到達目標
① 興味・関心のあるテーマの先行研究を行い、研究目的を明確にする。 ② 研究方法を検討し、研究計画を立てる。 ③ 研究計画に基づいて調査やフィールド実践等を行い、データを収集する。 ④ 収集したデータを分析し、考察を行う。 ⑤ 論文執筆・発表資料の作成および発表を行う。	① 興味・関心のあるテーマの中で、解決すべき課題を明らかにし、研究目的を設定することができる。 ② 研究方法を理解した上で、研究計画を立てることができる。 ③ 研究計画に基づいて調査やフィールド実践等を行い、データを収集することができる。 ④ 収集にしたデータを分析し、考察することができる ⑤ 論文にまとめ、わかりやすく発表資料を作成して、発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	到達目標に向けて、自ら研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	研究遂行のために、、粘り強く資料収集や調査を行い、推考し、執筆に取りかかることができる。
考え抜く力	課題発見力	事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	物事を多面的な視点からとらえて比較や統合し、新たな考えを生み出すことができる。
チームで働く力	発信力	内容を整理して的確な文章で表現し、わかりやすく発表することができる。
	傾聴力	他の人の意見を受け入れながら、自分の意見を修正したり発展させたりすることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	計画に基づき、目標達成に向けて期限やルールを守って行動することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

研究テーマに応じて参考文献を適宜紹介し、資料を配布する。

他科目との関連、資格との関連

本科目は卒業必修であり、これまで学んできた全科目の集大成となる位置づけである。

学修上の助言	受講生とのルール
・自分自身の興味・関心から熱意をもって取り組むことのできるテーマを選ぶ。 ・計画に沿ってコツコツと取り組むとともに、常にアンテナを張って情報収集を行い、探求心を養う。 ・他者と議論を交わす中で視野を広げる。	・無断欠席をしない。 ・資料を作成して進捗報告を行う。 ・社会人としての礼儀やマナーを意識して、他者と接すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	90	①	✓			・ゼミ内報告および論文執筆：各進捗段階ごと（研究テーマ、先行研究のまとめ、研究目的の設定、データ収集の方法、分析の方法、研究計画の立案、データ収集の準備、データ収集の進捗、分析結果、考察）に報告し、フィードバックを受け、修正しながら、論文のルールをに従って、執筆を進めることができる。 ・研究発表の資料作成：研究内容について、体裁を整えわかりやすく伝えることができる。 (獲得)先行研究から課題を明らかにし研究目的を立てる(20%)、研究方法を理解できる(20%) (活用)研究方法の立案・調査等・データ分析・考察(50%) (解決)方法・結果・考察・まとめと今後の課題をわかりやすく発表資料にまとめる(10%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
学修行動		社会人基礎力(学修態度)	10	①	✓			（主体性）到達目標に向けて、自ら研究に取り組むことができる。 （実行力）研究遂行のために、粘り強く資料収集や調査を行い、推考し、執筆に取りかかることができる。 （課題発見力）事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 （創造力）物事を多面的な視点からとらえて比較や統合し、新たな考えを生み出すことができる。 （発信力）内容を整理して的確な文章で表現し、わかりやすく発表することができる。 （傾聴力）他の人の意見を聞き取り、的確に理解することができる。 （規律性）計画に基づき、期限やルールを守ってた目標達成に向けて行動することができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀)：研究成果として、これまでになかった新しい知見を示すことができること。 A(優)：論旨の展開の仕方が明瞭であり、かつ論考を基に整合性のある結果や考察を導き出している。	B(良)：研究目的に沿った論旨の展開、結果、考察になっていること。 C(可)：論文の体裁が整えられて書かれている。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	・オリエンテーション ・論文の書き方、研究方法について学ぶ。 ・文献検索方法について学び、関連文献を収集する。 ・関連文献を読み合わせ、研究課題を絞り込む。	ディスカッション 個人指導	研究課題を決定することができる。	予習：興味のあるテーマに関連する文献を収集して読む。 復習：そのテーマに内在された課題を洗い出し、研究課題をまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	・先行研究の収集と通読。 ・研究目的を決定する。 ・信頼性・妥当性のある研究方法を検討する。	ディスカッション 個人指導	先行研究を読み、まとめることができる。	予習：先行研究の整理、要約を行う。 復習：先行研究から見出した課題を基に、研究目的を考える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-15	・研究計画を立案し、ゼミ内発表を行う。 ・研究計画に基づいて、調査やフィールド実践などでデータを収集する。	個人指導 ディスカッション プレゼンテーション	研究目的にそって、研究計画を立てることができる。 データ収集を行い、進捗状況を報告することができる。	予習：データ収集のための準備を行う。 復習：収集したデータを記録し、整理して報告できるようにする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	・収集したデータの分析を行い、結果をまとめる。 ・結果を基に、これまでの知見と照合しながら考察を進める。	個人指導 ディスカッション	分析結果をまとめ、考察することができる。 また、進捗状況を報告することができる。	予習：自分の考えを根拠づけながらまとめる。 復習：ディスカッションで得た課題についてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-30	・論文執筆 ・要旨、スライド資料の作成 ・スライド資料を用いた発表練習	個人指導 ディスカッション プレゼンテーション	研究した内容について論文やパワーポイントにまとめ、進捗状況を報告することができる。	予習：手順に従って計画的に執筆する。発表の準備をする。 復習：指摘された箇所を推敲しながらまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148M	卒業研究(宮武里衣)	宮武　里衣			4	必修	4前期・後期

科目の概要

４年間での学びの集大成として、DP1.2.3.4.5.6すべてに関連する科目である。主体的に研究テーマを選択し、的確な研究手法で研究し、論文として完成させる。国語教育を中心に、言葉に関すること、文学に関することを切り口としながらも、人と関わるときの新たなる発見ができるよう研究活動をする。

学修内容	到達目標
① 研究テーマを選定し、目的を設定する。 ② 研究課題から研究目的を明確にする。 ③ 研究方法を検討し、調査及びデータ分析・取材を行う。 ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成する。 ⑤　研究内容を学内の発表会で発表する。	① 研究テーマを選定し、目的が設定できる。 ② 研究課題から研究目的を明確にすることができる。 ③ 研究方法を検討し、調査及びデータ分析または取材方法を獲得することができる。 ④ 結果及び考察をまとめ、論文を作成することができる。 ⑤ 研究内容を社会で活用できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	研究目標に向かって、課題を自ら見つけて取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	課題を仕上げるための手順や方法を考えることができる。
考え抜く力	課題発見力	事実に基づいて、情報を客観的に整理し課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	研究結果を多面的・多角的にとらえ、自分の視点から分析し、文章にまとめることができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容を的確な文章で表現でき、聴き手に分かりやすく発表することができる。
	傾聴力	教員や他のゼミ生の意見を尊重しながら、自分の意見を的確に述べることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	計画的に進行し、期限を守るよう努力することができる。必要な時には教員や他のゼミ生との連携を上手にすることができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

『大学生のための本日語リテラシーとレポートライテング』宮武里衣（ナカニシヤ出版社）
参考資料・文献は適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

「卒業研究」は全ての科目で学んだ知識・技能を活用して臨み、技能・思考力・判断力・表現力を発揮する科目である。

学修上の助言	受講生とのルール
4年間の学修の集大成として研究論文を作成するために他の授業、就職活動と並行して努力すること。	決められたゼミの時間には遅刻や欠席をせずに出席すること。次回までの課題に取り組むこと。スケジュール管理をしっかりして、見通しをもって臨むこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	① ② ③ ④ ⑤	
学修成果	平常評価	小テスト	0	① ② ③ ④ ⑤	
学修成果	平常評価	レポート	80	①✓ ②✓ ③✓ ④✓ ⑤	・期限までに提出物を提出することができる。 ・「目的」を明確にした上で、目的に適した「方法」を選択し、根拠を明らかにして論文を書くことができる。 ・知識の獲得30%（論文の構成） ・知識の活用30%（論文の内容） ・知識の解決40%（論文の内容）
学修成果	平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	10	①✓ ②✓ ③✓ ④✓ ⑤✓	・聞き手を意識したプレゼンテーションを作成し、指定時間内に研究内容をわかりやすく伝えることができる。 ・知識の獲得30%（発表の構成） ・知識の活用30%（発表の内容） ・知識の解決40%（発表の内容）
学修行動	平常評価	社会人基礎力（学修態度）	10	①✓ ②✓ ③✓ ④✓ ⑤✓	（主体性）目標に向かって、指示を待たずに課題を見つけて取り組むことができる。 （実行力）手順や方法を模索して計画的に研究を進め、必要に応じて行動することができる。 （課題発見力）事実に基づいた情報を客観的に整理し、課題の本質を見極めることができる。 （創造力）研究結果を多面的・多角的にとらえ、自分の考えで分析し、文章にまとめることができる。 (発信力）研究内容を整理して、聞き手を意識した発表することができる。 （傾聴力）教員や他のゼミ生の意見をよく聞き、それを把握した上で、自分の意見を述べることができる。 （規律性）計画性をもって進行し、期限を守るよう努力することができる。
総合評価割合			100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
A(優)・指定された期限までに提出物を提出することができた。 ・論文では「目的」を明確にしたうえで、目的に適した「方法」を選択し、「結果、考察、まとめ」を読み手にわかりやすく書くことができた。 ・発表では指定時間内に聞き手にわかりやすく伝えることができた。 S（秀）・上記3点に加え、研究内容に独自性があり、学生の前で工夫しながら発表できた場合。	B(良)・指定された期限までに提出物を提出することができた。 ・論文では「目的」を明確にした上で、「方法、結果、考察、まとめ」を書くことができた。 ・発表では相手意識をもって研究内容を伝えることができた。 C(可)・Bの項目のうち、一つでも認められない場合。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-2	・卒業論文についての年間計画を立てる ・文献検索方法に関して図書館の利用方法を学ぶ ・過去の研究テーマを知る ・設定した課題の文献を情報読みする	討議 調査	研究課題を明確にすることができる	（予習）研究テーマを検討する （復習）研究課題を絞り込むために文献検索を行い、情報読みする	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3-5	・図書館において、文献検索方法について学ぶ ・過去のテーマを検索する ・研究課題を絞り込むために文献検索を行い、情報読みする	討議 個別指導 調査	先行研究を読み込み、研究課題の方向性を確定できる。	（予習）先行研究を読む （復習）研究課題を絞り込むために文献検索を行い、情報読みする	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-8	・研究テーマの決定と研究計画書の作成をする ・研究課題を明確にし、研究目的、方法を考える	討議 個別指導	研究課題を決定し、研究計画書を作成することができる	（予習）研究計画を立てる （復習）研究課題を明確にし、計画の実行性を考える	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
9-10	・計画に基づいて、研究をすすめる ・研究のための文献の収集、フィールド調整をする ・予備調査、研究に基づいて、仮説を立てる	個別指導 フィールド調査	調査研究を行うフィールドを調整する事ができる	（予習）文献読了をすすめる （復習）研究課題を明確にし研究目的、方法、内容について計画を行う	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-13	・研究方法を検討する ・アンケートやインタビュー調査の場合は、項目の検討と日時の折衝をする。 ・予備調査、研究に基づいて、仮説を立てる。	討議 個別指導	ゼミ内討議に積極的に参加して、研究方法をよりよいものにすることができる。	（予習）調査の準備をする （復習）研究方法を検討し、調査を行う	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14-15	・研究方針の基づいてフィールド調査を行う ・記録の分析方法を知る	個別指導	フィールド調査の分析方法が理解できる	（予習）調査の準備をする （復習）記録の分析を進める		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	・アンケートの集計及び、取材のまとめをする ・文献の分析をする ・論文執筆要領を理解する ・論文執筆を進める	個別指導	章の内容を考えたうえで、目次を立てられる	（予習）調査結果を表やグラフにし、考察を進める。 （復習）表やグラフを考察して、論文執筆要綱に則り、論文を作成する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-25	・卒業論文の作成、抄録の作成 ・文章の推敲	個別指導	文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができる	（予習）論文執筆する （復習）論文執筆要綱に則り、論文を作成する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC（可）の基準	予習・復習	時間（分）	能力名
26-29	・卒業論文の仕上げ、抄録の作成 ・発表のためのパワーポイント作成 ・発表原稿の作成	個別指導	文章を推敲しながら、論文執筆を進めることができ、発表のための論文要旨がまとめられる論文の内容を発表時間に合わせて話すための筋書きができる	（予習）論文執筆し、発表のためのパワーポイントを作成する （復習）論文執筆要綱に則り、論文を作成し、時間内に発表する練習をする	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
30	・卒業研究提出の準備をし、研究発表の練習をする	討議 個別指導	わかりやすいパワーポイントができ、所定の時間内に発表ができるよう練習することができる	（予習）時間内に発表する練習をする （復習）論文を推敲し提出する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148N	卒業研究（福江厚啓）	福江　厚啓			4	必修	4前期・後期

科目の概要

本学のディプロマポリシーDP①、②、③に記載している現代のこどもの生活問題に対する認識と現実の保育および教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、現代の子育て問題や教育再生、地域再生、持続可能な社会づくりに取り組むことができ、 DP④、⑤の社会的に自立して生きていく上で必要な建学の精神・社会人基礎力・ ｐｉｓａ型学力・直観力・ 自然体を統合的に身に付けることを目指す。
大学における初等教育・幼児教育・保育の学びのまとめとして、自らの興味と関心をもったテーマを設定し、先行研究や文献から主体的に情報を収集して探究し、得られた結果をまとめ、論文を執筆します。研究を進める中で、論理的な思考、内容を正確に伝達する表現力を身につけ、研究内容や結果を学内の卒業研究発表会で発表します。（DP⑥）

学修内容	到達目標
① 初等教育・幼児教育・保育に関連するテーマを確定し、目的を設定する。 ② 先行研究および用語の定義を調査する。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を考える ④ 収集したデータを分析し、考察してまとめる。 ⑤ 論文を作成し学内の発表会で発表する。	① 自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ② 先行研究および用語の定義が調査できる。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を構築できる。 ④ 収集したデータを分析して考察してまとめることができる。 ⑤ 論文を作成し、学内の発表会で発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	主体的に設定したテーマをもとに、発表準備における該当課題について積極的に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	既習科目や実習経験、文献やインターネットの情報を活用し、研究を遂行するために粘り強く、強い意志をもって取り組み続けることができる。
考え抜く力	課題発見力	研究内容や発表における疑問点や自分に不足している知識または技能を認識して、情報収集や分析を行ったり、課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めたりすることができる。
	計画力	
	創造力	研究を進めるなかで得た子どもを取り巻く今日的課題を見出し、必要な保育の意義を考え、理想の保育者としての自分の姿をイメージして新たな保育観や保育方法を探求することができる。
チームで働く力	発信力	自身の研究について分かりやすく整理してまとめたことを論文にすることができ、相手に分かるように内容を説明したり、発表することができる。
	傾聴力	討議や発表を聞くときは、相手の意見を正確に理解したり、疑問について質問をしたりすることができる。また共感的な姿勢で相手の考えを引き出し、他者からの意見を素直に受け止めることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	研究を行う上でふさわしい態度や期日の厳守等の必要性、重要性を理解し、遵守することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキストは使用しない。
研究のテーマにあわせて参考文献を紹介する。

他科目との関連、資格との関連

卒業研究（330743148N）は、全ての既修科目で修得した知識、実践力を基としディプロマポリシーの修得に結び付く集大成の科目である。

学修上の助言	受講生とのルール
大学の学びの集大成となる論文を作成するために、自身の得た知識を十分に発揮できるように主体的に取り組む態度で臨みましょう。前期は、週１回のゼミナールを行います。後期は、ゼミナールまたは必要に応じて個別指導の形式とします。	・課題等は期限を守って提出すること。 ・やむを得ない欠席の際には、必ず担当教員に連絡をすること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			①自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義が調査できる。 ③研究方法を検討して研究計画を立て、論文の構成を構築できる。 ④考察をまとめ、論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で発表することができる。 ・pisa型学力の評価方法について 知識の獲得（研究目的の理解・研究方法の理解）：30% 知識の活用（研究テーマに添った調査・情報収集の試み）：40% 知識の解決（研究テーマに関する問題提起の事例と具体的な提案）：30%
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）主体的に設定したテーマをもとに、発表準備における該当課題について積極的に取り組むことができる。 （実行力）既習科目や実習経験、文献やインターネットの情報を活用し、研究を遂行するために粘り強く、強い意志をもって取り組み続けることができる。 （課題発見力）研究内容や発表における疑問点や自分に不足している知識または技能を認識して、情報収集や分析を行ったり、課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めたりすることができる。 （創造力）研究を進めるなかで得た子どもを取り巻く今日的課題を見出し、必要な保育の意義を考え、理想の保育者としての自分の姿をイメージして新たな保育観や保育方法を探求することができる。 （発信力）自身の研究について分かりやすく整理してまとめたことを論文にすることができ、相手に分かるように内容を説明し、発表することができる。 （傾聴力）討議や発表を聞くときは、相手の意見を正確に理解したり、疑問について質問をしたりすることができる。また共感的な姿勢で相手の考えを引き出し、他者からの意見を素直に受け止めることができる。 （規律性）研究を行う上でふさわしい態度や期日の厳守等の必要性、重要性を理解し、遵守することができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
(S) ①自身が研究するテーマを意欲的かつ明確に確定し、計画的に目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義を広く確実に調査できる。 ③研究方法を広く検討し、研究計画に基づいて論文の構成を正確に構築できる。 ④考察を客観的根拠に基づいてわかりやすくまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で分かりやすく学術的に発表することができる。 (A) ①自身が研究するテーマを明確に確定し、計画的に目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義を広く調査できる。 ③研究方法をと研究計画を立て、論文の構成を正確に構築できる。 ④考察をわかりやすくまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会でわかりやすく発表することができる。	(B) ①自身が研究するテーマを確定し、計画的に目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義を自主的に調査できる。 ③研究方法を検討し、論文の構成を考えることができる。 ④考察をまとめ、計画に沿って論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で自分なりに発表することができる。 (C) ①自身が研究するテーマを確定し、目的設定ができる。 ②先行研究および用語の定義が調査できる。 ③研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 ④考察をまとめ、論文として執筆することができる。 ⑤研究内容を学内の発表会で発表することができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	・研究のスケジュールを立てる。 ・研究テーマを確定するため、過去のテーマを検索する。 ・研究倫理について学ぶ。 ・研究の動機と目的を明確にする。	ゼミナール google classroomにてフィードバック	研究テーマを確定するため、過去のテーマを検索し研究の動機と目的を明確にすることができる。	（予習）自分の興味があるテーマを調べて検討してくる。 （復習）指導教員及びゼミのメンバーからのアドバイスを整理して、記録する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6-10	・研究テーマを確定し、研究計画書の作成を行う。 ・テーマに基づいて先行研究および用語の定義を調査する。 ・研究の内容と方法について検討する。	ゼミナール	・用語の定義を調査し、一覧表にまとめることができる。 ・研究の内容と方法について考えることができる。	（予習）目的に関連する用語の定義を調査する。 （復習）用語の定義を一覧表にまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11-15	・調査などの記録方法について考える。 ・フィールドの調整を行い、調査をする。 ・記録の分析方法について考える。 ・論文の構成を考える。	ゼミナール google classroomにてフィードバック	研究の進め方を理解し、論文構成を考えることができる。	（予習）研究の構成を構築する。 （復習）論文構成に従い資料を収集する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-25	・データの集計及び分析を行う。 ・結果及び考察をまとめ、論文を作成する。	個人指導 google classroomにてフィードバック	論旨の一貫性を遵守し、伝えたい研究内容を執筆できる。	（予習）資料を駆使して論文を執筆する。 （復習）修正部分を手直しして、次回のための文章作成を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
26-30	卒研発表会で発表する資料を作成し、発表する。	個人指導 ゼミナール google classroomにてフィードバック	論文内容を簡潔に整理し、発表資料を作成できる。 卒研発表会で発表できる。	（予習）発表資料を作成する。 （復習）発表のための事前練習をする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
3307431480	卒業研究（岡谷ゆい）	岡谷　ゆい			4	必修	4前期・後期

科目の概要

現代の子どもと家庭を取り巻く課題解決に向け、四大精神の実践と社会人として自立した保育・教育者の育成を目指します（DP1,2,5）。
４年間の学びの集大成として、心理学の観点から研究テーマを設定し、調査分析を通して、自己覚知や、子どもと家庭を支援することができるよう探求を深めていきます（DP3,4）。
現代における子どもと家庭を取り巻く心理的な課題を学び、解決に貢献できるよう自己の潜在能力を高めていきます（DP6）。
乳幼児健診の発達相談や児童発達支援事業の心理士としての経験に基づき、子どもと家庭への支援について話をします。

学修内容	到達目標
① 現代社会における問題について心理学的観点から捉え、解決を目指す。 ② 自信の研究テーマについて、課題の理解と探求を深める。 ③ 自身の研究テーマに必要な量的および質的なデータ分析を理解し、計画を立案する。 ④ 自身の研究テーマについて、他者と意見交換しながら計画的に論文を執筆する。 ⑤ 自身の研究テーマについて他者と意見交換し、発表および質疑応答を行う。	① 現代社会における問題について心理学的観点から捉え、解決方法を検討することができる。 ② 自信の研究テーマについて、課題の理解と探求を深めることができる。 ③ 自身の研究テーマに必要な量的および質的なデータ分析を理解し、計画を立案できる。 ④ 自身の研究テーマについて、他者と意見交換しながら計画的に論文を執筆することができる。 ⑤ 自身の研究テーマについて他者と意見交換し、発表および質疑応答ができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	研究目的や手法を自ら設定し、積極的な姿勢で研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	研究における疑問点について、友人や教員とコミュニケーションを図りながら解決することができる。
	実行力	研究に必要な準備を欠かさず、能動的な姿勢で研究と論文執筆をすることができる。
考え抜く力	課題発見力	日頃から関心をもって情報収集し、自ら課題を見つけた上で研究計画の立案、執筆を行うことができる。
	計画力	計画的に研究・論文執筆を進めることができる。
	創造力	課題に対して、多様な視点から問題を捉え、課題解決に向けて考えることができる。
チームで働く力	発信力	必要な時に、意見を述べたり、発表したりすることができる。
	傾聴力	相手の話を聴く姿勢ができており、考えを巡らせながら他者の意見を受け入れることができる。
	柔軟性	多様な意見を取り入れ、他者の意見を踏まえて自身の考えを見直したり修正したりすることができる。
	情況把握力	研究に関するディスカッションの際に、自分の役割を意識しながら立ち回ることができる。
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など授業に支障をきたす行動をせず、課題の提出期限などを含むルールを守ることができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	多様な意見や考え方を取り入れる中で、保育・教育者に必要な自己覚知を深めることができる。

テキスト及び参考文献

テキスト：指定しない

必要に応じて参考文献の紹介や資料を配布することがあります。

他科目との関連、資格との関連

これまでに学んだ全ての科目の知識・技術を活用します。

学修上の助言	受講生とのルール
配布資料を綴じておくためのファイルや、ノートなどは必要に応じて用意してください。	主体的に教員と連絡、相談をしながら計画的に研究と論文執筆を進めてください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			【卒業論文の採点基準】 ①卒業論文にまじめに取り組んだか ②論文のテーマにオリジナリティや新しい知見はあるか ③論文の論理展開が明瞭で、不整合や飛躍がないか ④研究の目的達成のために、十分な調査がなされているか ⑤結果の分析と考察が十分になされているか ⑥論文が、わかりやすく、誤字脱字なくまとめられているか 【発表の採点基準】 ①資料の作成について：わかりやすくまとめられているか ②発表について：制限時間内に、説得力のある発表ができているか ※声が小さい、原稿棒読み、時間を守らない　などは減点対象 ③質疑応答について：質問に対し、誠実かつ的確に答えられているか ・pisa型学力の評価方法について 知識の獲得（心理学の理論とデータ分析の手法について理解できている）：50% 知識の活用（自身の研究テーマについて、研究計画の立案、調査、分析、論文執筆を計画的に進めることができる）：30% 知識の解決（現代の心の問題ついて理解し、調査および論文執筆を通して自己覚知や子どもと家庭への支援を考えることができる）：20%
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			「学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例」に記載の通りです。 卒業研究では、特に以下の7つを重視します。 ・主体性：研究目的や手法を自ら設定し、積極的な姿勢で研究に取り組むことができる。 ・働きかけ力：研究における疑問点について、友人や教員とコミュニケーションを図りながら解決することができる。 ・実行力：研究に必要な準備を欠かさず、能動的な姿勢で研究と論文執筆をすることができる。 ・計画力：計画的に研究・論文執筆を進めることができる。 ・発信力：必要な時に、意見を述べたり、発表したりすることができる。 ・創造力：課題に対して、多様な視点から問題を捉え、課題解決に向けて考えることができる。 ・規律性：無断欠席、遅刻、居眠り、私語など授業に支障をきたす行動をせず、課題の提出期限などを含むルールを守ることができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS（秀）及びA（優）の基準	到達レベルB（良）及びC（可）の基準
・現代の心の問題について、先行研究や心理学の理論などの観点から考え、その課題を理解、探求し考察することができる。 ・分析に必要なデータ収集および統計手法について理解し、適切な分析をもとに自身の研究について考察することができる。 ・自身の研究テーマについて、他者と意見交換しながら計画的に論文執筆を遂行し、修正を重ねながら完成させることができる。	・現代の心の問題について、先行研究に基づき考えることができる。 ・分析に必要なデータ収集および統計手法について理解しているが、自身の研究に必要な分析をすることができない。 ・自身の研究テーマについて、助言を受け、論文執筆を遂行し完成させることができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC（可）の基準	予習・復習	時間（分）	能力名
1-5	・オリエンテーション ・心理学における研究手法と論文の書き方	ディスカッション 個別指導	データ収集と分析、論文の構成についておおよそ理解することができた。ディスカッションと個別指導を通して、自身の研究テーマに必要なデータ収集と分析について検討することができる。	（予習）心理学的な問題について調べてみる。文献調査を行ってみる。 （復習）ディスカッションおよび指導内容をふり返り、疑問点のないように整理する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 発信力 規律性
6-10	・研究課題（テーマ）の決定と研究計画書の作成 ・研究の目的と方法について具体的な計画の立案	ディスカッション 個別指導	ディスカッションと個別指導を通して、具体的なデータ収集の時期と方法、データ分析の手法を検討、実施することができる。	（予習）文献調査から、先行研究の動向をまとめる。研究計画に基づきデータ収集と分析の準備を進める。 （復習）ディスカッションおよび指導内容をふり返り、疑問点のないように整理する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 発信力 規律性
11-15	・調査フォーム（観察・質問紙）の作成 ・調査の実施、データ収集	ディスカッション 個別指導	ディスカッションを通して、調査内容の精査を行うことができる。予備調査を実施し、データ収集を実施することができる。	（予習）研究計画に基づき予備調査のための調査フォームの作成を進める。 （復習）ディスカッションおよび指導内容をふり返り、疑問点のないように整理する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 発信力 規律性
16-20	・データ入力、収集、分析 ・データ分析の結果に基づく考察、検討	ディスカッション 個別指導	ディスカッションと個別指導を通して、データの収集と分析を進めることができる。研究目的に沿った考察を検討することができる。	（予習）データ入力、集計、分析を行う。研究目的をふり返りながら考察を検討する。 （復習）ディスカッションおよび指導内容をふり返り、疑問点のないように整理する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 計画力 創造力 発信力 規律性
21-25	・卒業論文の執筆	ディスカッション 個別指導	ディスカッションと個別指導を通して、卒業論文を執筆することができる。	（予習）調査結果に基づく図表の作成と卒業論文を執筆する。 （復習）ディスカッションおよび指導内容をふり返り、論文の完成を目指す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 計画力 創造力 発信力 規律性
26-30	・卒業論文および抄録の執筆 ・卒業論文発表会の資料作成	ディスカッション 個別指導	ディスカッションと個別指導を通して、卒業論文を完成させることができる。発表会に向けた資料を作成することができる。	（予習）卒業論文および抄録を執筆する。発表に向けた資料の作成と準備を行う。 （復習）ディスカッションおよび指導内容をふり返り、論文の完成を目指す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 計画力 創造力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148P	卒業研究（古田年寿）	古田　年寿			4	必修	4前期・後期

科目の概要

4年間の学びの集大成として、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成するために（DP②）、衣食住、子育てに関する実践的・体験的な研究活動を通して、研究結果を分かりやすく明確に発表できる知識と技能を身に付ける（DP③）。テーマとして、主に「美術、芸術、美術教育」および「文化全般」について、世界を俯瞰的に眺める能力を発揮して、自身の決めたテーマに沿った研究を行う。本科目は、４年間の学びの集大成としてDP①～⑥すべてに関連している。

学修内容	到達目標
① 自身が研究するテーマを確定し、目的を設定する。 ② 先行研究および作例等を調査する。 ③ 研究方法を検討し、研究の構成を考える。 ④ 研究結果および考察をまとめ、作品として制作する。 ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表する。	① 自身が研究するテーマを確定し、目的を設定することができる。 ② 先行研究および作例等を調査することで、知識の獲得や見聞を広めることができる。 ③ 獲得した知識や知見を活用して研究方法を検討し、研究の構成をすることができる。 ④ 研究成果を十分に反映させた作品を制作することができる。 ⑤ 研究内容を学内の発表会で発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	到達目標を設定し、主体的に研究に取り組むことができる。
	働きかけ力	必要な情報収集するために、提供者と積極的にコミュニケーションをとることができる。
	実行力	研究遂行のために必要な調査や情報収集、資料収集を行うことができる。
考え抜く力	課題発見力	研究テーマを調査するにあたり、最重要課題を見極めることができる。
	計画力	研究テーマを作品化するための材料選定や、綿密な作業工程計画を立てることができる。
	創造力	固定観念に捉われることなく、斬新で奇抜な発想ができる。
チームで働く力	発信力	調査研究した成果を作品として具現化できる。
	傾聴力	他者の意見やアドバイスにも謙虚に耳を傾けることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	円滑に研究が進行するよう、ゼミで決めたルールを遵守することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキスト：使用しない。
参考文献：研究テーマに合わせて参考資料を紹介する。

他科目との関連、資格との関連

卒業研究は、これまで学んできた集大成とされており、全科目と関連する卒業必修科目である。
資格取得には関連しない。

学修上の助言	受講生とのルール
前期は、週一回のゼミナールを行い、後期は個別指導の形式とします。 卒業制作としての作品は図画工作の域を超えたワンランク上を目指しましょう。 失敗を恐れず、積極的に挑戦しましょう。	ゼミナールの無断欠席は認めない。 研究調査をレジュメにまとめ、毎回持参すること。 研究調査の過程で見えてきた疑問点や課題については、質問するなどして、後回しにせず早めに解決すること。 作品制作の工程はその都度、写真等で記録しておくこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			（獲得）研究テーマに関した作例収集・調査による知識（20%） （活用）収集した資料・情報、調査結果の分析（30%） （解決）研究テーマに沿った資料・情報、調査結果を分析し、それを十分反映させた作品として制作できている。（50%）
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）研究・制作に積極的に取り組むことができる。 （実行力）研究遂行のための情報収集や調査をすることができる。 （課題発見力）常に自分の研究を客観的に省みることができる。 （創造力、柔軟性）既成概念を打ち破り、新しいものを生み出そうとすることができる。 （発信力）研究した内容を十分反映させた作品を制作することができる。 （傾聴力）教員や友人のアドバイスに謙虚に耳を傾けることができる。 （規律性）ゼミで決めたルールを遵守することができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①「テーマに沿った目的やコンセプト」を明確にしたうえで、最適な方法で作品を制作することができた。 ②発表では研究成果を様々な方法、手段で聞き手に分かりやすく伝えることができた。 ①、②を十分に満たした学生はA（優）、発想の斬新さ、作品の出来ばえ、が秀でているいる学生はS（秀）評価とする。	①指定された期限までに提出物（研究テーマ、コンセプトの要旨、作品等）を提出することができた。 ②「テーマに沿った目的やコンセプト」を明確にした上で、作品を制作するすることができた。 ③発表では指定時間内に、研究内容を伝えることができた。 ①、②、③を十分に満たした学生はB（良）、それらを満たさない学生はC（可）評価とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1-5	＜研究テーマの確定＞ ・自分の研究したいことを、今までに得た自身の知見やインターネット等の情報を基に考える。 ・情報収集する。	ゼミナール	研究テーマを確定するためのレジュメを作成できる。	（予習）先行研究ようのレジュメを作成する （復習）ゼミメンバーと指導教員のアドバイスを整理して次回のレジュメのための資料をさくせいする。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
6-10	＜先行研究および作例の調査＞ ・収集した作例を多角的、多面的に分析し、文章化してまとめる。	ゼミナール	収集した作例を多角的、多面的に分析し、文章化できる。	（予習）研究テーマに沿った作例を収集する。 （復習）作例について文章化したものから方向性を絞る。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 規律性
11-15	＜研究方法の検討＞ ・研究方法を検討し、研究の構成や作品制作計画を考える。	ゼミナール	研究の構成や綿密な作品制作計画を考えることができる。	（予習）研究構成の確認と円滑に制作を遂行するための策を講じる。 （復習）不足している情報や資料を収集する。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 規律性
16-25	＜作品制作＞ ・研究テーマ、コンセプトに沿った作品を制作する。	個別指導	研究テーマ、コンセプトに沿った作品が計画通りに制作できている。	（予習）制作の進捗状況を確認する。 （復習）制作過程で発生する問題の解決方法を探る。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性
26-30	＜発表会にむけて＞ 作品と併せて発表するための資料を作成する。	個別指導	研究内容をまとめた資料を作成し、作品と併せて卒研発表会で発表できる。	（予習）発表資料を作成する。 （復習）発表に向けて事前練習をする。		主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330743148Q	卒業研究（粟村正仁） Graduation Research	粟村　正仁			4	必須	4前期・後期

科目の概要

本科目では，受講者が研究テーマを主体的に設定し，試行錯誤しながら研究を遂行し，卒業論文を完成させる。テーマは、担当教員が教育方法学（特に，言語学に基づく言語教育の研究）を専門としていることから，教育における言語の問題をはじめ，教育方法学の一般理論及び各教科教育の特殊理論と実践，また情報通信技術を活用した教育の理論と方法などに関するものが考えられる。4年間の学びの集大成としてDP1-6すべてに関連する科目である。

学修内容	到達目標
① 研究テーマの設定。何を論証し，何を訴えたいのか，研究課題を具体的に設定する。 ② 資料の収集・分析。テーマに沿って，資料（先行研究など）を集め，分析して，研究状況の確認と自分のテーマの位置づけ，そして研究方法を確定する。※上記①と②は相互作用しつつ進行。 ③ 自分の主張の体系化。論文の構想・構成を書きだす。 ④ 執筆活動。卒業論文を執筆する。※上記③と④は相互作用しつつ進行。 ⑤ 研究発表。卒業論文を学内の発表会で口頭発表する。	① 自分が考えている「問題」を，対象化したり，学術的なレベルに引き上げたりして，研究課題を設定できる。 ② 論文執筆を目的とした文献収集の方法や情報読書の方法を用いて，先行研究を丁寧に収集・検討し，自分の研究テーマを位置づけて適切にまとめることができる。 ③ 研究を遂行し，論文の構想を練り、構成を考えながら、研究課題に対する自分なりの「答え」を出すことができる。 ④ テーマに関する自身の見解や成果を，万人に納得（理解）してもらえるよう論証された卒業論文を完成することができる。 ⑤ 卒業論文を聴衆に分かりやすく口頭発表することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	関心のある研究テーマと課題を設定し，必要な文献・資料を自ら収集・検討して研究を遂行する。
	働きかけ力	
	実行力	提示された文献や自分で収集した文献を参考にしながら，研究を一歩ずつ前に進めていく。
考え抜く力	課題発見力	自らの漠然とした関心を，試行錯誤しながら具体的な研究課題として設定する。
	計画力	
	創造力	万人に納得（理解）してもらえる形で，研究課題に対する自分なりの「答え」を出す。
チームで働く力	発信力	研究の進捗状況や成果を的確な文章で表現し，聴衆に分かりやすく発表することができる。
	傾聴力	他のゼミ生の発表・指摘・疑問に丁寧に耳を傾け，その内容を適切に理解するとともに，それを踏まえた自分の意見を的確に述べることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	研究倫理を尊守するとともに，締切を守るよう努力することができる。
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

参考文献：田中耕治ほか『教育をよみとく―教育学的探究のすすめ―』有斐閣，2017年。
その他の参考資料・文献は、適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

4年間の学びの集大成という意味で、全ての科目に関連している。

学修上の助言	受講生とのルール
人文系や教育学の研究は，突然のひらめきで一気に進む場合は少なく，まずは先行研究にしっかり学び，そのうえで自分なりの「ぎりぎりの一歩（オリジナリティー）」を説得的に論述するという姿勢が大事です（田中ら，2017）。	進捗状況をレジュメにまとめて定期的に報告すること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	① ② ③ ④ ⑤	
学修成果	平常評価	小テスト	0	① ② ③ ④ ⑤	
学修成果	平常評価	レポート	80	①✓ ②✓ ③✓ ④✓ ⑤	●研究課題を設定したうえで，関連する先行研究を検討し，適切な論理展開を通して自分なりの答えを出すことができる。 ・獲得（30%） 文献収集の方法や，情報読書の方法を身につけるとともに，研究内容に関する知識，論文の構成方法（研究倫理を含む）に関する知識等を適切に用いることができる。 ・活用（30%） 上記の知識を活用して，論理的かつ首尾一貫した文章を構成できる。 ・解決（40%） 設定した研究課題に対する自分なりの答えを出すことができる。
学修成果	平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	10	① ② ③ ④ ⑤✓	●論文発表の慣習を理解し，自身の研究を聴衆に分かりやすく説明するためのレジュメやスライドを作成して，制限時間を守って発表することができる。 ・獲得（30%） 発表する際の心構えや，発表の仕方，レジュメやスライドの作成方法を理解できる。 ・活用（30%） 上記の知識を活用して，聴衆に分かりやすいレジュメやスライドを構成できる。 ・解決（40%） 論文発表の慣習に沿って，自身の研究を聴衆に分かりやすく伝えることができる。
学修行動	平常評価	社会人基礎力（学修態度）	10	①✓ ②✓ ③✓ ④✓ ⑤✓	（主体性）関心のある研究テーマと課題を設定し，必要な文献・資料を自ら収集・検討して研究を遂行する。 （実行力）提示された文献や自分で収集した文献を参考にしながら，研究を一歩ずつ前に進めていく。 （課題発見力）自分の漠然とした関心を，試行錯誤しながら具体的な研究課題として設定する。 （創造力）万人に納得（理解）してもらえる形で，研究課題に対する自分なりの答えを出す。 （発信力）研究の進捗状況や成果を的確な文章で表現し，聴衆に分かりやすく発表することができる。 （傾聴力）他のゼミ生の発表・指摘・疑問に丁寧に耳を傾け，その内容を適切に理解するとともに，それを踏まえた自分の意見を的確に述べることができる。 （規律性）研究倫理を尊守するとともに，締切を守るよう努力することができる。
総合評価割合			100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
●到達レベルS ・研究課題が明確に設定されたうえで，関連する先行研究が十分に検討され，その先行研究を乗り越えるという姿勢のもとに，明快な論理展開を通して独創的な主張や提案が説得的に行われている。さらに，その研究成果が聴衆に分かりやすく発表されている。 ●到達レベルA ・研究課題が明確に設定されたうえで，関連する先行研究が検討され，その先行研究を乗り越えるという姿勢のもとに，必要な論理展開を通して自分なりの答えが示されている。さらに，その研究成果が聴衆に分かりやすく発表されている。	●到達レベルB ・研究課題が設定されたうえで，関連する先行研究が挙げられ，それを踏まえて，自分なりの答えが示されている。さらに，その研究成果が聴衆に分かりやすく発表されている。 ●到達レベルC ・研究課題が設定されたうえで，関連する必要最低限の先行研究が挙げられ，自分なりの答えが示されようとしている。さらに，その研究内容が発表されている。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	・ガイダンス ・卒業論文とは何かを理解する ・卒業論文でどのようなことを研究したいか発表する ・図書館の利用方法を学ぶ	・演習 ・発表 ・Google Classroomを活用した資料の共有	卒業論文とは何かについて理解し，どのようなことを研究したいのか説明できる。	（予習）卒業論文でどのようなことを研究したいのか考える。 （復習）他のゼミ生の発表を聞いたうえで，研究したいことをさらに深く考える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2-4	・学術情報検索サービスを用いた文献検索・収集の方法を学ぶ ・図書館に行き，文献を収集する ・自分の関心のある問題について，文献検索を行う ・研究テーマ及び研究課題を設定するために，情報読書の方法を用いて文献を読む	・演習 ・ICTを活用した文献収集	文献収集の方法及び収集した文献の読み方を理解できる。	（予習）自分の関心のある問題について考える。 （復習）研究テーマ及び研究課題を設定するために，情報読書の方法を用いて文献を読む。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5-7	・研究テーマを決定し，研究課題を明確にする ・課題を解決するための方法を考える ・上記の内容を踏まえた研究計画をレジュメにまとめて，ゼミ内で発表する	・演習 ・発表 ・議論 ・個別指導	研究テーマを決定し，研究課題を明確にしたうえで，研究計画書を作成できる。	（予習）研究テーマ及び研究課題を考える。 （復習）ゼミでの議論をもとに，研究テーマ及び研究課題を明確にする。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8-12	・研究倫理について学ぶ ・計画に基づいて研究を進める ・テーマに沿って先行研究を収集・検討する	・演習 ・ICTを活用した文献収集 ・個別指導	研究倫理について理解し，テーマに沿って先行研究を収集・検討できる。	（予習）研究倫理とは何かについて，第1回目の授業内容を参考に確認する。 （復習）先行研究を収集し検討する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13-15	・先行研究を検討しながら，論文の構想を練り、構成を考える ・論文の構想と構成をレジュメにまとめてゼミで発表する	・演習 ・発表 ・議論 ・個別指導	論文の構想と構成をレジュメにまとめ，発表することができる。	（予習）論文の構想を練り、構成を考える。 （復習）ゼミでの議論をもとに，論文の構想・構成を見直す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
16-20	・論文を執筆する ・定期的に進捗状況を報告する ・ゼミで中間発表を行い，現時点での課題を確認する	・演習 ・発表 ・議論 ・個別指導	論文を半分以上執筆し，その時点での進捗状況や今後の課題をゼミで発表することができる。	（予習）論文を執筆する。 （復習）ゼミでの議論をもとに，論文の内容や研究計画を適宜見直す。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
21-25	・論文本体を執筆し，完成させる ・定期的に進捗状況を報告する ・抄録を作成する	・演習 ・個別指導	文章を推敲しながら論文を完成させ，抄録の作成に取り掛かることができる。	（予習）論文を執筆する。 （復習）完成した論文をもとに，抄録を作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
26-29	・抄録を完成させ，ゼミで発表する ・論文の内容を適宜修正する ・論文発表の慣習や，発表方法を学ぶ ・口頭発表会のためのレジュメやスライド（必要に応じて発表原稿）を作成する	・演習 ・発表 ・ICTを活用したプレゼンテーション資料作成 ・個別指導	抄録を完成させることができる。また，口頭発表会のためのレジュメやスライドを，発表時間を意識して作成することができる。	（予習）抄録を完成する。 （復習）口頭発表会のためのレジュメやスライド（必要に応じて発表原稿）を作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
30	・論文提出の準備・最終確認をする ・ゼミで模擬口頭発表会を行う	・演習 ・発表 ・議論 ・ICTを活用したプレゼンテーション ・個別指導	聴衆に分かりやすいレジュメやスライドを用いて，発表時間を守って発表できるよう練習することができる。	（予習）口頭発表会のための発表練習を行う。 （復習）論文を提出するとともに，模擬口頭発表会での課題を整理し、本発表に備える。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力